

### Ⅲ 環境教育活動への協力等

赤谷プロジェクトでは「生物多様性の復元」、「持続的な地域づくり」に取り組んでいます。この二大目標を推進するためには、プロジェクトの理解者及び協力者を増やしていくことが必要です。そのための一つの方法として、赤谷センターでは環境教育活動への協力を積極的に行っており、赤谷プロジェクトの特徴を生かした環境教育プログラムの充実を図っています。

※ 赤谷プロジェクトの特徴を生かした環境教育プログラムとは、プロジェクトの調査活動で得られた情報が環境教育の教材として提供され、また、環境教育で得られた情報はプロジェクト調査活動に提供される、フィードバック関係にある参加型のリアルタイムな環境教育プログラムです。

#### 1 要望に応じたプログラムの作成

平成25年度の赤谷センターでは、センター発足当初から培ってきた独自のプログラムに加え、参加者のニーズを収集しながら、「より安全に！より楽しく！より学べる！」提案型のプログラム作りにさらに取り組みました。

##### (1) プログラム提供の流れ

- ① 依頼者から要請（自然体験活動協力依頼書）
- ② 依頼者からニーズを把握
- ③ 提案する企画の作成→依頼者と内容の確認（安全に関する事項含む）
- ④ 事前調査（危険等の予測・緊急時・雨天時の確認・役割分担）
- ⑤ 楽しみとしてのサプライズメニューの検討！
- ⑥ 当日の天候を予測し実施
- ⑦ 報告書の作成（失敗したこと・こうすればもっと良かったことなどは必ず記載）
- ⑧ ホームページへ掲載及び活動集計表へ記載

##### (2) 提案した主なプログラム

プログラム名	目的	対象
・森の探検ウォークラリー (version2) ・自然観察オリエンテーリング	・体験活動を通じて、仲間と楽しさ・達成感を分かち合う ・森の生き物について学ぶ(危険な動植物も含む) ・樹木の生きるための工夫を学ぶ ・楽しい思い出をいっぱい持ってかえる	小学生  デサントスポーツキッズ教室
・生態系サービス(自然の恵み)を探そう！ ・森の贈り物ってどんなもの？	・生態系サービスとはどんなこと ・自然観察を通して生態系から得ている利益について学ぶ！ ・野生動物のモニタリング調査を体験する ・旧三国街道での自然・歴史探索	中学生 高校生
生物多様性復元に向けた取組	・赤谷プロジェクトの概要 ・溪流の連続性の復元・人工林から自然林への復元 ・野生生物のモニタリング調査活動	大学生
豊かな生物多様性の保全に向けた国有林の取組「赤谷プロジェクト」を観察見学会	・赤谷プロジェクトの概要 ・溪流の連続性の復元及び人工林から自然林への復元 ・野生生物のモニタリング調査活動 ・生物多様性と環境教育（意見交換等）	森林ボランティアリーダー等

## 2 環境教育等の実施状況

平成25年度は、21回延べ512人へ対して外部から依頼を受け環境教育等を実施しました。(イベント的に実施したものは除く)

### ① 環境教育 (小中学生及び親子体験含む)

年月日	曜日	名称	内容	開催地	主催者	参加人数
H25.7.22	月	新治小学校5年生サマースクール	「自然の不思議と恵み探し」	高原千葉村	新治小学校	60
H25.7.29	月	デサントスポーツキッズ教室	「森の探検ウォークラリー(version2)」	高原千葉村	デサントキッズ みなかみ町	42
H25.10.1	火	新治小学校6年生 遠足	旧三国街道遠足(群馬側～新潟側)	旧三国街道(三坂線～ 新潟側トンネル)	新治小学校	63
H25.10.2	水	沼田北小学校 森林環境学習	「森の探検ウォークラリー(version2)」	高原千葉村	沼田北小学校	77
H25.11.28	木	新治小 事後学習	10/1新治小遠足の事後学習「遠足の振り返りと赤谷の森で見られる動物たち」	新治小学校	新治小学校	61
					計	303

#### 「森の探検ウォークラリーversion2」(沼田市立沼田北小学校)

平成25年10月2日、群馬県みなかみ町「高原千葉村」において、沼田北小学校5年生77名を対象に「森の探検ウォークラリーversion2」を実施しました。

これは、4つのポイント(①ターゲット・アニマル(フィールドスコープ・双眼鏡)②トレジャー・カード(赤谷の森 野生生物カード)③森の動物たち(センサーカメラ)④樹木の種子(ロケットリーフ作り))を班ごとに順番に回り、解説を聞いたり、双眼鏡等を使用し森の生物を探しながら体験を学習します。ポイントごとにそれぞれテーマで個性を生かしたインタープリテーションを聞けるのも特徴です。今回は、昨年のプログラムをバージョンアップしてよりアクティブな内容にした、「トレジャーカード」(赤谷の森 野生生物カードを探す)を導入し、探検隊の好奇心をよりかきたてました。



①ターゲット・アニマル



②トレジャーカード



③森の動物達



最後は、ロケットリーフ大会



④樹木の種子



## ②セミナー・研修等（大学生及び社会人）

年月日	曜日	名称	内容	開催地	主催者	参加人数
H25.4.13	土	国有林における生物多様性の復元に向けた森づくりの見学会	生物多様性の保全について、関東森林管理局が平成16年度から重点的に取り組んでいる「赤谷プロジェクト」	みなかみ町相保 猿ヶ京アリア デミール	NPO森づくりフォーラム	7
H25.4.14	日	国有林における生物多様性の復元に向けた森づくりの見学会	小出保林道で、自然林復元の取組みを見学(講師:長)	みなかみ町 小出保林道	NPO森づくりフォーラム	7
H25.5.14	火	森林生態系スペシャリスト研修	「森林生態についての知見を有する職員の養成を図り、業務の円滑な運営を図る」ことを目的とした研修	関東森林管理局・研修所・いぎもの村ほか	関東森林管理局	10
H25.5.15	水	森林生態系スペシャリスト研修	「森林生態についての知見を有する職員の養成を図り、業務の円滑な運営を図る」ことを目的とした研修	関東森林管理局・研修所・いぎもの村ほか	関東森林管理局	10
H25.5.18	土	放送大学面接授業	赤谷プロジェクトの内容と意義(講義:廣橋所長)	沼田市立図書館	放送大学群馬学習センター	13
H25.5.19	日	放送大学面接授業	赤谷源流の豊かな自然を観察し、わが国の水源と生物多様性を考える(講師:長島成和 補助:栗田喜則)	小出保林道ほか	放送大学群馬学習センター	13
H25.6.30	日	「旧三国街道三国峠を歩こう!」学習会	「旧三国街道・三国峠周辺の森の魅力」学習会	猿ヶ京料理旅館樋口	赤谷プロジェクト	18
H25.7.4	木	森林インストラクター東京会「木の日」学習会	「国有林における幅広い関係者の協働による生物多様性復元に向けた取組」の学習会	東京都文京区	森林インストラクター東京会	18
H25.7.10	水	「旧三国街道三国峠を歩こう!」学習会	6月30日に座学で学習したものを、現地で観察し、知識を深めることが目的	旧三国街道・三国峠	赤谷プロジェクト	18
H25.10.24	木	群馬県農林大学校外学習	森林管理学習Ⅱ 「生物多様性復元に向けた取組」	いぎもの村外	群馬県農林大学	10
H25.10.30	水	利根実業高等学校 校外学習	「生態系サービスを探せ!」	旧三国街道	利根実業高等学校	20
H25.11.6	水	環境省自然保護官等研修Ⅲ	林野行政に見る地域協働～赤谷プロジェクトを例に～	埼玉県所沢	環境省環境調査研修所	19
H25.11.20	水	生物多様性保全Ⅰ研修	平成25年度 生物多様性保全Ⅰ(技術)研修	森林技術総合研修所	林野庁 森林技術総合研修所	18
H25.11.21	木	生物多様性保全Ⅰ研修	〃	森林技術総合研修所	林野庁 森林技術総合研修所	18
H25.12.5	木	JICA(ラオス)研修	平成25年度ラオス「REDD+と二国間における炭素クレジット取引制度構築」研修コース	利根沼田森林管理署～いぎもの村外	JICA(ラオス)	5
H25.12.6	金	JICA(ラオス)研修	〃	いぎもの村外	JICA(ラオス)	5
					計	209

赤谷プロジェクトは、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」に関する先進的な取組であるとともに、国有林の協働管理のモデルでもあります。赤谷プロジェクトのこれまでの成果、協働管理のためノウハウ等について、他の国有林をはじめとする国内外の森林の管理に広く役立ててもらうため、林野庁等の行う研修や大学生・社会人向けのセミナーにも積極的に協力することとしています。

### 「森林インストラクター東京会「木の日」学習会」



栗田自然再生指導官

ング調査活動等赤谷プロジェクトの取組と生物多様性と環境教育等について意見交換も行いました。

平成25年7月4日、林友ビル6F会議室（東京都文京区後楽1-7-12）において、森林インストラクター東京会の会員を対象に「国有林における幅広い関係者の協働による生物多様性復元に向けた取組」と題して、溪流の連続性の復元及び人工林から自然林への復元、野生生物のモニタリ



学習会の様子

### 「群馬県農林大学校（森林管理実習Ⅱ）」

平成25年10月24日群馬県農林大学校森林・環境コース2年生を対象に「三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画（赤谷プロジェクト）の目的である、生物多様性の復元と持続的な地域づくりの取組を学ぶ」を実施しました。

○主な内容

- ・赤谷プロジェクトの概要
- ・溪流の連続性の復元
- ・人工林から自然林への復元
- ・野生生物のモニタリング調査活動 等



茂倉沢2号ダムの説明

### 「利根実業高等学校校外学習」

平成25年10月30日 利根実業高等学校グリーンライフ科の2年生を対象に自然環境や保護活動に対する知識を深め、今後の学習に役立てることを目的に校外学習を実施しました。

天候は秋晴れ、気持ちのよい校外学習になりました。

○旧三国街道での自然・歴史探索

- ・三坂線入口～晶子清水～東屋～長岡藩士の墓～馬返し～くぐつが谷～宝岩～三国トンネル群馬側歩道～三坂パーキング



紅葉をバックに記念撮影

### 「環境省自然保護官研修」（環境省職員）



赤谷センターの取組を紹介

平成25年度11月6日、埼玉県所沢市の環境省環境調査研修所において、環境調査研修所長の依頼により、赤谷プロジェクトの概要等について説明しました。この研修は、環境省が自然保護官事務所勤務を経験した職員19名を対象に「様々な分野の有識者や他の研修生との意見交換を通して、視野を広げること」等目的に実施しています。今年度は、「赤谷の地域との協働をもっと深く知りたい」との要望があったことから、赤谷プロジェクト協定者でそれぞれの立場からの取組を紹介しました。質疑等では、「赤谷プロジェクトと地方自治体の関係」「赤谷プロジェクトの普及対策は、どのように対応しているか」「赤谷プロジェクトは、地域にどのように貢献できているのか」など時間を過ぎてても熱い意見交換ができました。



意見交換の様子

「平成25年度 生物多様性保全研修」(林野庁及び都道府県職員)



赤谷プロジェクトの概要説明

平成25年11月20～21日群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉周辺で、地方公共団体及び森林管理局担当職員等18名を対象として、赤谷プロジェクトの紹介を行いました。

この研修は生物多様性保全は、森林経営の重要な目的の一つであり、また持続的な森林経営を達成するための重要な要素でもあることから、それらの理論・技術

に精通した者を育成することを目的に行われています。

赤谷センターでは、赤谷プロジェクトの概要と自然林復元試験地での取組とその目的・各WGの位置付けや活動の紹介に加えて、協働管理を円滑に行っていくために工夫した仕組み作りなどを説明しました。



自然林復元試験地

「平成25年度 ラオス「REDD+と二国間における炭素クレジット取引制度構築」研修コース」



ラオス語の翻訳

平成25年12月5～6日、群馬県みなかみ町外において、独立行政法人国際協力機構（通称：JICA）東京国際センター所長様からの依頼により、ラオス人民民主共和国からの研修生の受入れを行いました。

研修は、赤谷プロジェクトの概要を説明し、二日目は、赤谷プロジェクトが目指している自然林を見たいとの要望を受け、旧三国街道三坂線へ行き、ブナ・ミズナラの巨木等を観察しました。

その後、小出俣林道カツラステーション～スギ列上間伐～カラマツ漸伐試験地～スギ漸伐試験地を見

学し、最後は、赤谷プロジェクトの普及活動の拠点になっている、たくみの里での広報活動の取組を説明しました。



赤谷プロジェクトの概要説明



旧三国街道の自然林を見学

### 3 赤谷の森自然散策

群馬県内の一般の方々等を対象に、赤谷の森の生物多様性のしくみ、森林の働き、動植物についてなど自然や環境と人との繋がりを学べる環境教育プログラム「赤谷の森自然散策」を開催しました。

これは、赤谷センターの主催で、平成18年度から継続して実施しています。平成25年度の赤谷の森自然散策は、マンネリ化した内容と経費を見直し、「学ぶ、遊ぶ、楽しむ」を基本に、みなかみ町環境課や地元猿ヶ京温泉の「民話と紙芝居の家」と連携したイベントにしました。

また、新たにイベントサポートしていただけるボランティア・スタッフ制度も設け、要員不足を補いました。

・平成25年度の実績 実施回数：3回 延べ参加者数：69人

#### 赤谷森林ふれあい推進センターにおける「ボランティア・スタッフ」制度について

##### 1 目的

この制度は、赤谷森林ふれあい推進センター（以下「赤谷センター」）が実施するイベントなどをサポートしながら、自然観察に関する技術及び運営方法等について学べる機会として設定しました。

##### 2 ボランティア・スタッフの対象とする活動について

赤谷センターが主催する「赤谷の森自然散策」において、次の活動を行うものとする。

- (1) ガイド及びガイド補助
- (2) イベントの運営補助（受付、資料配布、参加者の誘導など）
- (3) イベント機材の運搬・携行（図鑑、ルーペ、救急薬品等）
- (4) 写真撮影（一眼レフ貸出）
- (5) その他（赤谷センターが必要と認めた活動）

##### 3 ボランティア・スタッフ申込みの条件について

- (1) 高校生以上（高校生は、保護者の同意が必要）
- (2) 現地まで自分で来ることができる
- (3) イベント中は、自己責任において自らの安全を確保できる
- (4) 健康で山を歩く体力がある
- (5) 参加者と一緒楽しむことができる

##### 4 その他

- (1) ボランティア・スタッフは、障害保険等に加入していただきます。（保険料は主催者負担）
- (2) イベント中に使用する機材は貸与します。
- (3) 希望者は、主催者が行う事前調査に参加できます。

平成25年9月19日作成

#### 平成25年5月24日（土曜日）～春の息吹を体感しませんか～

実施場所：旧三国街道（新潟県側～群馬県側）

参加者数：24名

ガイド：赤谷森林ふれあい推進センター職員

実施内容：春の息吹を体感しながら、ニリンソウ等の咲き誇る旧三国街道を散策しました。（高低差600mの新潟・群馬県境を越えるコース）

当日は快晴に恵まれ、旧三国街道は新緑のほかにニリンソウやオオカメノキの白い花をはじめ、ナエバキスミレやキジムシロの黄色い花、ムラサキヤシオツツジやシラネアオイの



三国権現で記念撮影

紫色の花がたくさん見られ、楽しみながら自然観察が出来ました。

○参加者の感想(アンケートより)

- ・ 自然の中、歩いて高山植物・巨大樹木を見て、その生命力のすばらしさに感動し、気持ちの良い疲れでした。
- ・ 新緑の森が最高でした。もっとゆっくり観察したいと思いました。ガイドさんの案内もたいへん興味深く楽しく聞かせていただきました。
- ・ 森林浴が気持ちよく、歩いてもさほど疲れは感じませんでした。
- ・ 登りも呼吸が苦しくなることもなく、ちょうど良いコースでした。
- ・ 天気が良く、ガイド、勾配、道程、時間そして自然がすべて満足です。
- ・ コースは新緑を感じることが出来て気持ちよく歩けた。もっとプロジェクトの活動を知りたいと思った。
- ・ ぜひ秋の赤谷の森自然散策に参加したいと思います。

**平成25年10月27日（日曜日） ～深まる秋を体感しませんか～**

実施場所：旧三国街道（群馬県側）

参加者数：21名

ガイド：赤谷森林ふれあい推進センター職員

実施内容：錦秋に染まるブナ・ミズナラの樹木を観察しながら、旧三国街道を歩きました。（高低差600mの群馬県側のコース）帰りは、たくみの里「豊楽祭」を見学しました。

台風27号の影響で、開催か！中止か！で、気をもんでいましたが、10/25に決定を決めました。当日は、1名のキャンセルがありました。天候小雨、気温6度の中、皆様と移り行く季節を満喫しました。

また、今回から導入したボランティアスタッフに1名の方が登録していただきました。



群馬県側トンネル付近で記念撮影

○参加者の感想(アンケートより)

- ・ 来年も参加したい。
- ・ 雨の後で足が悪かった。参加して良かったです。
- ・ 初めてだったので、紅葉も良く、とても良かったです。ただガイドさんの説明が一番前に行かなければ全然聞こえなかったです。
- ・ 距離的に丁度良かった。
- ・ 久しぶりに自然の中に入り、興味ある話が聞け、とてもいい一日でした。
- ・ ポイントを押さえて解説していただいたので、とても良かったと思いました。安心・安全なコースで、時間的にも余裕があってよかったです。
- ・ 身近でこのようなプログラムのあることを知り、参加して大変良かった。プログラムのアピール方法を、もっと積極的にしてほしいと思う。
- ・ 近づきたい峠にはじめて足を踏み入れ、こんなにも豊かな樹木や歴史があるのを知り、とても感動でした。
- ・ ちょっと、お天気にへそを曲げられて、寒かったですが楽しかったです。又機会を見つけて、散策したいと思います。

- ・昨年と比べて天気が良くて助かった。ブナの巨木が風にきしむ音を聞き、この地の自然のきびしさが分かった。
- ・天候の不安定な中、スタッフの皆様の経験豊富なエスコートで、楽しく過ごせました。とても親切に対応してくださり、ありがとうございました。

### 平成26年2月8日（土曜日） ～冬の観察会と紙芝居！～

実施場所：群馬県みなかみ町相俣（いきもの村）ほか

参加者数：24名

ガイド：赤谷森林ふれあい推進センター職員

実施内容：スノーシューを履いて、雪上でのアニマルトラッキング&冬芽の観察など行い、昼食後は、巨大な雪だるまを作ったりしながら、雪と戯れました。イベントの最後は、「民話と紙芝居の家」にて、猿ヶ京温泉に古くから伝わるお話などを紙芝居で鑑賞しました。散策した風景が、懐かしいひと時となる瞬間でした。



いきもの村で記念撮影

今回は、5名の方がボランティア・スタッフに登録していただきました。

#### ○参加者の感想(アンケートより)

- ・なかなか山へ入る機会はないので、こういう企画はとてもありがたいです。かまくら作りとか、雪遊びの企画もあつたらいいですね。
- ・子供も大人も大変楽しめました（自然を満喫。勉強になった。）
- ・スタッフの対応（雪の心配に）良かった。冬の知識が深まった。
- ・受け継がれてきた自然と伝わる物語という別の方向の地域の事柄を、楽しみながら両方知れるというのは、すごく画期的だと感じました。すばらしかったです。
- ・途中からの参加でしたが、とても面白く過ごさせて戴きました。
- ・自然観察と、民話語りの自然と文化両面より赤谷のことを知ることが出来た点がとても良かった。
- ・貴重なのぞきからくりの実演が見られ、またその語りに感動しました。地域の子供達もプレゼンターとして参加し、良い経験になり、引き継がれていくと思います。
- ・案内など、郵送していただけると助かります。ほかの市の山歩きなど、よく参加するのですが、一度参加すると毎年案内を送ってくれるので、毎年参加しています。ぜひ送っていただけると嬉しいです。
- ・今年度のように、充実した時間（イベント内容）が希望です。
- ・今回のように、自然と歴史を楽しく学べる内容でお願いします。
- ・スノーシューハイクの開催日を複数回に増やして欲しい。



民話と紙芝居の鑑賞

## IV 地域との連携

赤谷センターでは、赤谷プロジェクトの目標の1つである、「持続的な地域づくり」を目指し、地方自治体、教育関係機関や地元NPO団体等と協力・連携関係を構築するための様々な取組を実施しています。

### 1 地域行事等への参加・協力

平成25年度は、利根沼田地域のイベント等に利根沼田森林管理署及び赤谷プロジェクト地域協議会などと連携しながら積極的に参加しました。

#### ① みなかみ町内でのイベント

##### 「第4回全国源流サミットin群馬県みなかみ町」



廣橋所長の特別講演 (7/6)

第4回全国源流サミットが全国源流の郷協議会の町村長等の参加のもとみなかみ町で平成25年7月5日～7日の3日間開催されました。サミットでは「源流～魅力の発見と活用～」をテーマに掲げ、源流域の豊かな自然や培われた伝統文化などから魅力を発見し、源流域の未来に向かって活用方策の議論や可能性を探求することを目的にしています。

6日（土曜日）には、みなかみ町カルチャーセンター大会議室（群馬県みなかみ町上牧1735）で開催されたシンポジウムでは、赤谷森林ふれあい推進センターの廣橋所長がゲストスピーカーとして「赤谷プロジェクト」の取組を報告しました。（来場者350人）

また、7日のエクスカージョンでは、「豊かな溪流環境の復元を目指す取組の見学コース」を赤谷森林ふれあい推進センターが担当し、茂倉沢での溪流環境保全のための赤谷プロジェクトの取組を紹介しました。



エクスカージョンの様子 (7/7)

##### 「猿ヶ京赤谷湖上花火大会」（群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉）



イベントの様子

平成25年8月24日群馬県みなかみ町まんてん星の湯前の広場において、猿ヶ京温泉まつり実行委員会主催の猿ヶ京温泉赤谷湖上花火大会のイベントに赤谷プロジェクト地域協議会と合同で参加しました。体験者数大人37人子ども31人計68名当日は、ネイチャークラフト体験（ヒノキの球果を使用したストラップ作り、森のかけらストラップ作り）を行いました。



ヒノキ球果ストラップづくり

## 2013みなかみオンパク（ココイラ）に参画！

第1回地域づくりWG会議にて、みなかみ町観光協会からの依頼を受け、パートナーとして、赤谷プロジェクトから4つのプログラムを提供しました。

**2013みなかみオンパク（ココイラ）に パートナーとして初参加！**



みなかみオンパク（ココイラ）とは、地元の人が地元の人を案内して、みんながこの町を大好きになるための小さなプログラムの集まりで、温泉地として地域の活気とつながりを再生するまちづくりイベントです。

<p><b>H25.9.29</b></p>  <p><b>ネイチャークラフト教室</b></p> <p>スギの木片（かけら）やヒノキの球果を利用して、オリジナルストラップを作成しました。</p>	<p><b>H25.10.5</b></p>  <p><b>センカメ仙人と行く赤谷の森</b></p> <p>自称「センカメ仙人」と赤谷プロジェクトサポーターと旧三国街道三坂線～三坂茶屋を散策しました。</p>	<p><b>H25.9.27/10.14</b></p>  <p><b>赤谷の森の恵みでカスタネットをつくろう！</b></p> <p>みなかみの赤谷の森で育った木ジュエトサポーターと旧三国街道三坂線～三坂茶屋を散策しました。</p>	<p><b>H25.10.20</b></p>  <p><b>一眼レフカメラ講座・森の魅力を撮ろう！</b></p> <p>大坪信二さん（元ニコン塾講師）を講師に迎えて実践的なカメラ講座を開催しました。</p>
---	--	---	--

赤谷の森だより24号より抜粋

## ② 沼田市内でのイベント

### 「第18回ごったくまつり・ボランティアフェスタぬまた」（群馬県沼田市）



赤谷プロジェクトブース

平成25年12月1日（日曜日）沼田市保健福祉センター（群馬県沼田市東原新町1801-72）にて、沼田市ボランティア連絡協議会・ごったくまつり実行委員会の主催する「第18回ごったくまつり・ボランティアフェスタぬまた」に参加し、ネイチャークラフト体験を行いました。イベントでは、ステージ発表や活動展示、体験コーナー、食品販売などが行われ、多くの来場者でにぎわ



ヒノキ球果ストラップ

いました。体験者は、78名（大人39人、子供39人）

※ このイベントは、ボランティア活動に対する市民への理解を深めるとともに、活動状況の発表の場を通して来場者と参加者の交流を深めるために行われています。

## ② 前橋市内でのイベント

### 「グリーンフェア2013in敷島公園まつり」（群馬県前橋市）



ロケットリーフ体験

平成25年4月29日（月：祝）グリーンフェア2013in敷島公園まつりが、群馬県前橋市敷島町「敷島公園」において開催され、関東森林管理局技術普及課と共同で赤谷プロジェクト等の取組をPRしてきました。昨年までは、パネルの展示だけでしたが、今回は、職員も配置しロケットリーフ等の体験も行いました。



テントの様子

## 2 地域の取り組みへの支援

赤谷センターでは、ふれあい業務を通じて、地域のNPO等への支援を行っています。

### 「環境教育アイテムを活用した地域振興」への寄与



普及用のチラシ

みなかみ町廃校活用プロジェクトを行っている「一般社団法人猿ヶ京小学校スポーツアカデミー」と協力して、環境教育用アイテムとして活用できる「空飛ぶタネの模型（名称：ロケットリーフ）」を作成しました。

ロケットリーフは、平成25年5月1日間伐材マーク事務局より、間伐材マークの認定（認定番号 K1303301）を受けたことから、ロケットリーフを通じて、間伐材推進の普及啓発及び間伐材の利用促進もPRできます。

間伐材マークの認定を受けたことで、環境教育のプログラムに幅を持たせられるとともに、このアイテムをみなかみ町発！全国区へと普及させることで、森林・林業はもとより、地域振興にも寄与できると考えています。



### 「民話と紙芝居の家」との協働イベントの開催

特定非営利活動法人「にいはるこども文化塾（館長持谷靖子）」が指定管理者として、運営している「民話と紙芝居の家（群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉1150番地1）」と連携し、自然観察と民話等の融合した「第3回赤谷の森自然散策～冬の観察会と紙芝居～」とのコラボ企画を実施し、地域の文化的財産である当施設の支援を行いました。

※ 特定非営利活動法人「にいはるこども文化塾」とは、未来を担う子供育成の視点を持って、特に当地域に顕著に残された民話等を通じ、文化、芸術、経済、地域活動を行い、明るい地域社会を作り、年齢、男女、職業等の枠をこえて地域社会の人々と共に文化的な環境作りに寄与することを目的に活動している。



にいはるこども文化塾の子供たち

### 3 赤谷プロジェクトの活動規模

赤谷プロジェクトが調査活動や視察・イベントなどを通じて、プロジェクトエリア周辺地域の振興にどの程度貢献しているのかの目安として、おおよその延べ人数を算出しました。

- (1) 環境教育・イベント等 ……………約2,500人
- (2) 調査活動等 ……………約900人
- (3) 会議・検討会等 ……………約500人

平成25年度の赤谷プロジェクトの活動規模は、延べ人工として、約3,900人規模の活動でした。また、赤谷プロジェクトを運営する国側の出先機関として、沼田市に関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター（森林整備部所属）を設置し、常勤職員3名、臨時職員1名、計4名の配置を行っています。

※ 規模人工調査は、赤谷センターが、各イベント・視察・環境教育・赤谷の日等からカウントしているデータを基に算出しました。

モニタリングに調査等に関しては、調査請負者への聴き取りや個別の調査日数に平均的な一日当たりの調査人数を掛けて算出しました。

会議等については、出席者数を会議ごとに算出しました。会議は、赤谷プロジェクト関係する会議（東京で開催された会議も含む）をカウントし、集計は、十の位を四捨五入し、百人単位としました。

